

11月30日（土）「ホスピタリティの英語表現とマナー」

担当教員：国際人文学部 国際交流学科
教授 Maria S. Ichiyama 先生



先生の実体験をもとに、文化が違くと「おもてなし」や「心遣い」が意味を持たなくなってしまうこと、異文化を知らない・理解しないことで差別が生まれてしまうこと、今の日本は異文化理解の教育環境が不十分であることを学びました。

日本人から見た外国人には「アメリカ人＝ハンバーガーが好き」のようなステレオタイプがあり、それらが偏見である場合が多くあります。「日本人は誰もが刺身を食べられますか？」という問いに、皆さんなるほど、と頷かれていました。

本当のホスピタリティとは何か、相手の出自や性別によって差別するのはなぜなのか、「違う」ということを受け入れることの大切さ、さまざまなことを考えさせられるご講義でした。